

は じ め に

学長 斎藤 秀晃

新潟県立看護短期大学は、開学後 6 年とその歴史は新しいものの、看護学科卒業生 388 人、専攻科修了生 178 人を送り出し、就職をしている卒業生の多くは、県内の病院はもとより県内市町村並び県外の病院及び市町村などの看護職員として、患者の健康の回復、保持への援助や地域社会における健康教育、健康相談などの重責を果たし、保健医療水準の向上の一翼を担っていることは、「生命の尊厳と価値観に立つ豊かな人間性を育むとともに、正しい判断力と思考力をもって人に接することのできる優れた看護専門家を育成する」ことを目標と掲げ、教授してきた結果と自負しているところである。

新潟県は、慢性的な看護職員不足の解消、人口構造の高齢化や医療内容の高度化、専門化の一層の進展とともに、看護現場において、新しい看護ニーズに対応した指導的役割の果たせる資質の高い看護職員の養成のため、平成 2 年 12 月に「県立看護系短期大学設立検討委員会」を設置した。平成 3 年 3 月、同委員会より提出された「県立看護系短期大学設置基本構想」に基づき、本学は看護学科（3 年過程 100 人）単科の短期大学として、平成 6 年 4 月に開学し、その後、平成 9 年度からは、地域看護学専攻（45 人）及び助産学専攻（15 人）からなる専攻科を開設し、現在に至っているところである。

本学の開学に伴い、伝統のある新潟県立中央病院付属看護専門学校と新潟県公衆衛生看護学校は、それぞれの任務を終え、本学が発展的に継承したことになった。

教育の基本的な考えは、看護の対象は人間であり、生命に深く関わることから、倫理的に自らを深く考え理解するための人間教育や高度化する医療技術に対応していくための、理論と実践能力を養成する、臨床実習教育などの充実に努めている。

また、一般県民を対象にした健康と看護に関する知識の普及と県民の看護水準の向上に寄与するため、公開講座の開催、図書館の開放、生涯学習推進機関への支援等大学の研究教育機能を広く地域社会に提供してきたところである。

本報告書は、本学の開学から平成 11 年度までの 6 年間の経過と現状、課題を総括し、自己点検・評価を行うため、平成 9 年 12 月に自己点検・評価委員会を設置し、慎重な審議を重ね取りまとめたものである。

本学は、地域文化に根ざした看護科学の考究を教育・研究の使命とし、より質の高い看護人材の育成を行うため、平成 14 年 4 月開学の予定で 4 年制の看護大学へ発展改組することとしているが、今回の自己点検・評価で得られたことが、将来の教育、研究や大学運営管理に有益なものとなるものと思っている。

また、今回の自己点検・評価は、第三者評価システムの導入は行っていないことから、より透明性、客観性の高い大学運営をするためにも、自己点検の継続とともに、学外者による第三者評価システムの導入がこれからの検討課題である。

本学の今後の展望のため、関係各位の忌憚のないご批判、ご助言をお願いしたい。